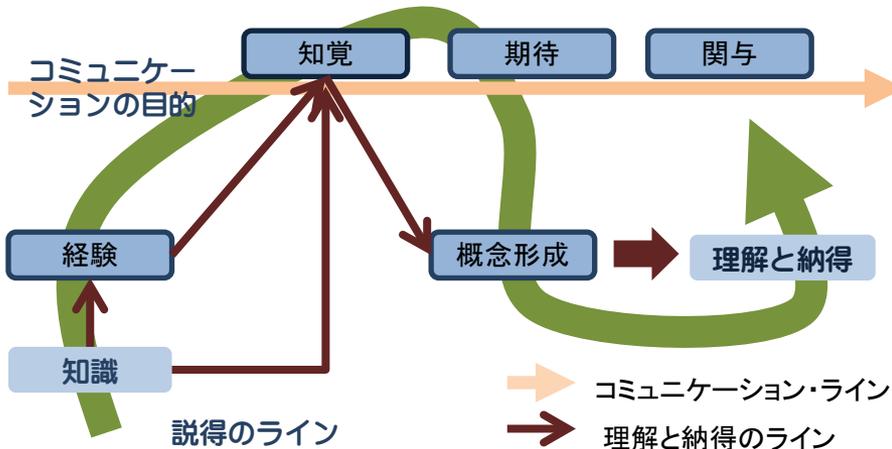


コミュニケーションの目的



コミュニケーションについて、たくさんの学者が、世界中で研究している。確かな答えは、いまだ出ていないようである。如何にすれば、円滑なコミュニケーションが取れるのかが探られている。たくさんの人が居て、一人ひとりにいろんな思いと目的があり、時と場所、相手となる人によって変化する。無数と言えるコミュニケーション形態がある。

上に挙げた図は、無数のコミュニケーションの共通項である。コミュニケーションは、間違いなく、人と人の関わりを表す。

コミュニケーションの目的

コミュニケーションを定義するとすれば、「互いに知覚し、期待し、関与する」ことである。

そのために、相手の知識と経験を推しはかかって、知覚できるように語りかける。

話し始めたとき、相手に何かを期待する。期待し、できれば、これからも続けて関わり合おうとする。その第一歩として、概念形成、イメージをしよう。

イメージをしようのように表現する。

人は、聞きたいところのみを聞く。興味を持ったところのみを聞く。知っている事柄、知識を手がかりにして聞く。相手の手がかりから掛け離れてしまうと理解が遠のく。だから、ソクラテスが言ったように「大工に話すには大工の言葉で」となる。有名な比喩的な表現である。

コミュニケーションへの姿勢

コミュニケーションには相手が必要である。相手のないコミュニケーションは存在しない。

確かなコミュニケーションをするためには、確かな知識と確かな目的が必要である。さらに、相手を理解し、相手を想う姿勢が大切である。さらに、共に未来に向かって協力し合おうとする意思が必要である。如何なるコミュニケーションであっても大切な姿勢である。

互いに、その気持ちと姿勢をもっていたとしたら、それこそがコミュニケーション理論になる。

互いに分かるために、理解し合うために言葉を交わす。言葉が理路整然としておれば、理解するための時間が短くなる。強引な説得は、相手が心底納得していなければ、いずれ破たんをきたす。

コミュニケーションの準備

互いの状況によってコミュニケーションが変化するが、以下の事柄は、あらかじめ認識しておいた方が良い。以下を常に準備し、蓄えていく。実践と準備蓄えられたモノで、コミュニケーションを円滑に進められるようになる。

1. 互いの立場を認識する。
2. 自らの役割を検討する。
3. 共通認識している事柄を確認する。
4. 共有している事柄を確認する。
5. 互いの過不足を確認する。
6. 目的としている成果を理解する。

文章分析から分かる表現傾向

人の表現形態を文章分析で分析すると、人には必ず、二面性がある。内にこもる部分と外に向かう部分である。内に向かう表現スタイルはおよそ固定するが、外に向かう表現スタイルはいくつかに分かれるようだ。

自らの立場を誇示する者と頓着のない者とは、表現スタイルが異なってくる。目的が明確な者とそうでない者とも違う。人を何らかの形で区別する者は、相手によって表現スタイルが違ってくる。

表現する者の精神状態(喜怒哀楽)によっても違ってくる。躁鬱も、継続して分析している兆候が表れる。コミュニケーションは、その状態によって影響されているので、自らのスタイルを認識しておくのも、コミュニケーションを円滑に進める助けとなる。